

新院長に 茅野副院長が昇任

高田院長勇退!!

津更木
木更津

院長に武部先生

高田院長が3月31日付を以って8年間の院長職を辞した。今後は引きつづき名譽院長として、臨床に専念するとともに若手の指導・育成にあたり、玄々堂君津病院院長に茅野副院長が昇任、玄々堂木更津クリニック院長には武部副院長が就任した。



白亜の洲崎灯台(館山)

地域医療の発展向上をめざして

玄々堂君津病院 院長 茅野 嗣雄



医療は市民とともにあります。ひとびとはさまざまな社会環境、家族環境、個人環境に取り囲まれて生きております。われわれ医療職もまたその中の一員であり、同じ社会環境の中で医療という技術を通じて人々に奉仕しております。最近の医療技術はますます

「いつでも、どこでも、だ



やさしい手

木更津クリニック 院長 武部 嗣郎

去年、病院のイメージを考

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

れでもが「住まいの近くで最

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

病院食も選択の時代

永年勤続者表彰

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

南大和病院副院長に 吉野谷先生就任

新入職員入職

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

薬剤管理指導料 承認される

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

卒業おめでとう

阪神大震災で ボランティア活動参加

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

「どこが苦しい」と手を

私が現池田理事長から院長職を引き継いだのは8年前で、その日は丁度大学駅伝が行われている日でした。そこで、私は就任の挨拶の中でこの駅伝競争になぞらえて、池田院長から第二走者としてタスキを受けるに当たって、それ迄に稼いでもらったリードを失うことなく、出来れば少しリードを上げた上で、次の走者にタスキを渡すのが、私に課せられた暗黙の義務であろうという意味のことを申し述べたのでした。今それを思い出しつつ8年を振り返って、何とか私なりにこの義務を果たせたかなという自負を感じることが出来るのは大変幸せなことです。ただ、これも池田理事長、茅野副院長はじめ職員の皆様の強力なバックアップがあったからこそであり、感謝の気持ちで一杯です。

大学の医局を出てから30年、この頃になってやっと、患者を診る、ということが判って来て、臨床医としてはこれからが本番という気がしています。従って、これからも診療は従来通り行ない、地域医療に少しでもお役に立てればと思っています。又、当医療法人の理事としての立場もあります。これから始める病院の増改築をひかえて、病院経営の面でも微力を尽くしたいと考えています。

さて、この機会に紙面をかりて、当院開院以来の課題である全人的医療というこの意味と、職員の皆様に対する私の願望とを申し述べて退任の言葉にかえることにしよう。

先ず全人的医療についてですが、私のいう全人的医療にはいくつかの条件があります。先ず医師は、細分化された専門分野に閉じこもることなく、総合診療医(G・P)としての診療活動を中心とする。第二に、データや画像の氾濫に振り廻されるのではなく、人間としての患者を、人間に本来備った五感を通して(患者のありのままを裸の目で直視し、素手で触れ、患者の発する音、言葉に耳を傾け、etc)繰り返し診ることを診療の基盤とすること。これなくしては患者の苦痛や症状は勿論のこと、画像やデータからの情報も生きた情報として、医療者の腹の底迄届くことはないのです。第三に、人間の中では心と身体は切り離せないものだということ。心と治療力の相互関係の追求が医療の質を変えようとしています。デカルト以来の心身二元論に立脚した身体医学、生物医学一辺倒からの脱却を目指すのが全人的医療の重要なテーマです。第四に、死という人生の終着点に立つて、今迄の医療とは逆方向からの視線で人間の生に迫る医療。これが実は、終末期医療を支えているスタンスなのです。又、終末期医療に於いて

退任の言葉 ～職員のみなさんへ～

君津病院理事 前院長
高田 真行



は「もう治らない患者」と「医者」との関係は、医者对患者の関係でなく、人間対人間の関係が主軸となることを知るべきでしょう。これからも当院の課題である全人的医療について、日々の診療の中で私が身体で感じていることを、敢えて言葉で表現すれば以上のようになります。

最後に職員の皆様に対する私のお願いは、フランスの女性哲学者シモーヌ・ヴェイユの言葉で始めましょう。彼女はかつてこういう事を書きました。「人間にとって一番大切な態度は何か?それは他人に向かかって、あなたはどの様に苦しいのですか?と問いかけることだ。その様に問いかけることが人間にとって最も美しい、最も人間らしいことであるし、そこから行動も始まる」と書いています。この人間というところを医療者に、他人というところを患者さんに置きかえて読み直してみてください。勿論私はシモーヌ・ヴェイユや、このヴェイユの言葉をその著書の中で紹介した大江健三郎氏の深い苦悩に満ちた思索や実践を通過して来たわけではありません。しかし、それにも拘らず、どの様に苦しいのですか?という問いを常に心に持って患者さんに接することが医療の原点であり、すべての医療行動(患者さんの接遇から始まって看護・診療行動に至る迄)はこの問いに始まるのだということを信じています。そしてこれは30年の実地診療の間に私の中で少しずつ醸成された実体的な感触でもあります。

当院の職員の皆様が夫々の職場で、いつもこの問いを心に持って患者さんに接して下さることを、切に願っています。又、終末期医療に於いて

～1・17 阪神大震災～ ボランティア活動に参加して



1月17日の早朝、阪神地区を襲った大地震は死者5千3百人以上、負傷者は2万人以上という戦後最大の被害を残した。医療機関も大きなダメージを受け、一時混乱を招いたが直ちに日本赤十字社を中心に救援活動が開始され、多くの命を救った。その中でも看護ボランティアの果たす役割は大きく、当院からも若林紀子さん(3F病棟) 大野敬子さん(透析室) 阿部直美さん(手術室)の3名の看護婦がボランティアで現地へ飛んだ。また、大神総婦長も知人の陣中見舞いを兼ねて被災地へ行かれたので、各氏にその状況を聞いてみた。

阿部：保健室を診療所にし、体育館が避難所になっていて約4百人が共同生活を送っていました。日に2回巡りましたが皆暗く、声をかけても傾く位でした。

大野：清拭等をするのも館内では他の人が羨ましがるので気軽に出来ず、トラブルになるので診療所で行っていました。中には配給の苺の大きさを言い争う人達もいました。かなり疲労とストレスが溜まっていたと思います。水と電気はありましたが冷たい床の上にダンボールと毛布で寝場所を作っているのが、風邪をひいている人が多かったですね。交代で掃除をしているとはいえ仮設トイレの臭気はきつ、場所がないためその近くで食事を配るとい状況でした。

看護婦以外にも全国から物資の配送をする人や、食事を手配する人など、沢山のボランティアが働いていました。

大野：震災から約1か月たった2月16日から22日の間、芦屋の精道中学校で勤務しました。

阿部：震災から約1か月たった2月16日から22日の間、芦屋の精道中学校で勤務しました。

若林：病院で1日半当直し、あけて大阪の宿へ戻るパターンでした。震災から半月後だったので電気しか通っておらず水は自衛隊の運んでくるポータブルタンクを使い、ガスがないうので暖房も使えず雪の日も電気毛布と衣類で寒さをしのいでいました。高

伝いできればと言う自然な気持ちでした。

大野：看護婦自身も被災者なので人手が不足し職員は3割の確保がやっとで、他はボランティアでした。

仕事は診療補助が中心でしたが、地震で怪我をした子供達がいり、皆ストレスをつよく感じている時期だったので明るく話を聞く事を心掛けました。

ケアはタオルボックスがあれば便利だったと思います。オムツを替えてもおしぼりウェットティッシュが拭くことが多くかぶれている人もいました。ひどい人には少しのお湯を使って洗いましたがとても全員には行き届きません。

自分も地下のリハビリ室でダンボールの上に布団を敷きホカロンを身体中に巻いて寝ていましたが、病院は所々壊れていました。看護婦の中には感染者に言う不安は常にありましたね。看護婦の中には感染者に使用した針を誤って刺した人もいて直ぐに処置できずはら

ボランティアに行く事になったきっかけは

大野：震災のニュースを見ながら何か出来ることはないかと思ひ、新聞欄で見た募集に申し込みました。看護職に限らず何でも役に立てればという気持ちでした。

阿部：若林：看護協会から病院を通じて募集がありました。あまり「ボランティア」と言う事は意識がなく、お手

状況とどのような活動をしてきたか教えてください

若林：病院で1日半当直し、あけて大阪の宿へ戻るパターンでした。震災から半月後だったので電気しか通っておらず水は自衛隊の運んでくるポータブルタンクを使い、ガスがないうので暖房も使えず雪の日も電気毛布と衣類で寒さをしのいでいました。高



ボランティアの仲間たち

大神総婦長：知り合い(看護婦)の陣中見舞いを兼ねて兵庫に行きましたが、実際に見て街の状況が想像以上にひどく驚きました。そんな中、透析専門の住吉病院の総婦長とお話する機会が持てたのですが地震後から本

当に忙しい毎日のようです。透析に水は必須ですが全面ストップとなり近隣の病院へ救急車等を使って患者を振り分けたそうです。とはいえ、怪我をしている人が山程いるのですから救急隊も内科疾患の患者さんより血を流している人を優先しがちです。又、混乱しているので生死の確認も出来ず、誰が何処の病院でフォロー受けているのか情報不足でもあったようです。これは当院でも考えられる事で他人事ではなく、とても危険なことです。こんな時は特に速やかに病院に連絡する事が大切ですね。そして相談したり指示をもらう。普段から災害時の対処法を徹底しておく必要があると強く感じました。

この病院では震災後3日目から再開したそうですが、水は患者さんの中にたまたま造り酒屋さんが提供してくれ、タンクローリーで運んだと聞きました。機械はキャストが付いたので位置は移動しても、倒れる事もなく破損が軽くすんだため復旧も早く出来たとの事でした。

全国から来たボランティア医療スタッフは2月現在で約7千人。千葉県からも看護協会を通し55人の登録があり、内36人が活動してきました。今後も尚増え続けると思いますが、ボランティアを通して学んだ事を今後に生かして欲しいと思います。(W)

シリーズ “病気を考える” ⑫ 骨粗鬆症

骨粗鬆症は老人や閉経後の女性に多く見られる疾患であり、骨折の原因にもなる疾患であると言われています。最近、若い女性にも見られるはじめ週刊誌やテレビでも取り上げられ話題になっていきます。又、これからますます高齢化が進み骨粗鬆症をもつ人口が増えたと予測されており、その予防、治療は骨折からの寝たきり老人をひとりでも減らすという課題を含んでいます。

そこで今回は、骨粗鬆症について帝京大学市原病院整形外科講座助手の結城善彦先生に解説いただきました。



帝京大学市原病院整形外科
講座助手 結城善彦

骨粗鬆症とは、骨の中のカルシウムなどが減少するため、骨の密度が小さくなり、骨が非常にもろくなる状態をいいます。高齢者、とくに閉経後の女性に多く起こります。腰や背中に慢性的な痛みやだるさを感じたり、夜中からだるさを急に動かしただけに、腰や背中に鋭い痛みを感じたりすることがあります。この病気の疑いがあります。ほ

うっておくと症状は進んでし

最近では、高齢者の人口が増加してきたために、この病気の患者さんの数も増え続け、現在では65歳以上の人のおよそ3人に1人はこの病気の疑いがあるといわれています。ですからこの病気の診断と治療は、これからはますます重要になってくると思われます。少しでもこの病気の疑いがある人には驚かされません。一方、なんと色々な種類の商品があるのかという点においても同様を感じた次第です。そこで、こういう商品群を扱うからには、まず、実物を見て触って頂く事に心掛ける事としました。その為にはお客様と相談を充分に行い本場に必要なる物を提供していくことが、私の仕事であると感じたのです。販売するに当たっては、昨年50時間に及ぶ専門の研



当社では「家族を大切に！ファミリーヘルスケア」を合い言葉に、介護機器・用品等（ストーマ用補装具を含む）の販売及びレンタルを行っております。

私は担当になってまだ1年余りではありますが、最初に感じたことは、商品の特殊性のため全体的に価格が高い

ある人は、レントゲン撮影やその他の方法で早期に詳しい検査を受けることが必要です。また骨粗鬆症という診断を受けた患者さんでも、主治医の指導のもとで治療と生活の改善を行えば、かならず症状はよくなりますので、根気よく治療を続けることが必要です。骨粗鬆症の治療には薬

による治療、器具による治療などがありますが、日常生活の改善も大切なことなのです。

●骨粗鬆症の原因

骨粗鬆症はさまざまな原因で起こります。そのひとつにカルシウム摂取量の不足があります。カルシウムは骨をつくりあげる大切な成分ですから、骨粗鬆症の患者さんでは

その摂取量が少ないといわれています。

また、私達のからだの中には数多くのホルモンが互いにバランスをとりながら働いています。そのひとつの副甲状腺ホルモンには骨の成分が血液中に溶け出していくのを促す働きがあり、カルシトニンというホルモンにはそれを防ぐ働きがあります。ですからこの2つのホルモンのバランスが崩れ、溶けだす成分の量が多くなると、全体の骨の量は減少し、骨粗鬆症が起こります。女性ホルモンであるエストロゲンにもこの副甲状腺ホルモンの働きをおさえる性質があり、骨粗鬆症が閉経後の女性に多く起こるのは、エストロゲンの不足に関係があるとされています。

ビタミンDは紫外線により皮下脂肪の中で活性化型ビタミンDとよばれるものに変化しますが、この活性化型ビタミンDには腸からのカルシウム吸収を促進する働きがあります。ですからビタミンDが不足したり、ビタミンDを活性化型ビタミンDに変える働きがうまくいかない、腸から吸収されるカルシウムの量が少

るかをまずはつきりさせる事をかまわずはつきりさせる事です。

福祉機器・用品を利用することで自分のできる範囲が拡大したり、又楽になったり本人も生活に対する新たな意欲が湧いて来るといえます。

2. 介護者の介護量を軽減するものであるか

在宅介護を行うに当たっては、精神的にも身体的にも介護者には大きな負担がかかります。特に大変なのは起居動作や移動動作の介助です。ベッド等の選択に当たっては、特に将来本人の身体機能の低下や介護者の体調の悪い時の

修正を受けました。その内容は(1)老人福祉論(2)老人・障害者の心理(3)医学一般(4)リハビリテーション(5)介護技術(6)職業倫理(7)機器用品の理解といったものでした。

研修の過程で、商品の選択に当たっては次の3点を念頭に置くことの良い事を学び、それは、

1. 在宅介護者の自立範囲を拡大するものであるか

在宅介護者が自分で何をしたいか何ができ

お客様が望む介護用品を ノバメディクス 友光 淳一

何をしたいか何ができ

ティー・タイム

一服の清涼剤

健康の為にとバレエボールを始めて約5年。現在、仕事が終ってから週に2回、ママさんバレエのコーチとして共に汗をかいています。「こんばんは」元気な声。アップで始まり厳しい練習！バレエは様々、あっちに走ったり転んだり、時には笑いころげたり、でもボールをおいかける目は真剣。大汗を流して身も心もリフレッシュ。実に楽しいひとときです。バレエボールは私の一服の清涼剤！

みなさんも素敵な汗をかいてはいかがですか？



事務 飯妻 美佳

なくなり、骨をつくる働きが弱まって骨粗鬆症が起こります。また長期間動かさずにいることもこの病気の原因のひとつとされています。

●骨粗鬆症の診断

骨粗鬆症の診断には腰椎や大腿骨のレントゲン検査を行います。最近では骨の密度を測定する骨塩定量装置が開発され使われるようになってきました。また、骨が弱くなる病気が骨粗鬆症以外にも骨軟化症、繊維性骨炎、多発性骨髄腫、がんの骨転移などが

骨粗鬆症の危険因子には運動不足、栄養摂取の不全、特にカルシウムの不足、遺伝的な因子、飲酒、喫煙などがあります。これらの危険因子を一つ一つ除去していくことにより予防が可能です。カルシウムを十分に取り、日光に当たって皮膚でビタミンDをつくる病気が骨粗鬆症以外にも骨軟化症、繊維性骨炎、多発性骨髄腫、がんの骨転移などが

骨粗鬆症の危険因子には運動不足、栄養摂取の不全、特にカルシウムの不足、遺伝的な因子、飲酒、喫煙などがあります。これらの危険因子を一つ一つ除去していくことにより予防が可能です。カルシウムを十分に取り、日光に当たって皮膚でビタミンDをつくる病気が骨粗鬆症以外にも骨軟化症、繊維性骨炎、多発性骨髄腫、がんの骨転移などが

骨粗鬆症の危険因子には運動不足、栄養摂取の不全、特にカルシウムの不足、遺伝的な因子、飲酒、喫煙などがあります。これらの危険因子を一つ一つ除去していくことにより予防が可能です。カルシウムを十分に取り、日光に当たって皮膚でビタミンDをつくる病気が骨粗鬆症以外にも骨軟化症、繊維性骨炎、多発性骨髄腫、がんの骨転移などが

骨粗鬆症の危険因子には運動不足、栄養摂取の不全、特にカルシウムの不足、遺伝的な因子、飲酒、喫煙などがあります。これらの危険因子を一つ一つ除去していくことにより予防が可能です。カルシウムを十分に取り、日光に当たって皮膚でビタミンDをつくる病気が骨粗鬆症以外にも骨軟化症、繊維性骨炎、多発性骨髄腫、がんの骨転移などが

骨粗鬆症の危険因子には運動不足、栄養摂取の不全、特にカルシウムの不足、遺伝的な因子、飲酒、喫煙などがあります。これらの危険因子を一つ一つ除去していくことにより予防が可能です。カルシウムを十分に取り、日光に当たって皮膚でビタミンDをつくる病気が骨粗鬆症以外にも骨軟化症、繊維性骨炎、多発性骨髄腫、がんの骨転移などが

骨粗鬆症の危険因子には運動不足、栄養摂取の不全、特にカルシウムの不足、遺伝的な因子、飲酒、喫煙などがあります。これらの危険因子を一つ一つ除去していくことにより予防が可能です。カルシウムを十分に取り、日光に当たって皮膚でビタミンDをつくる病気が骨粗鬆症以外にも骨軟化症、繊維性骨炎、多発性骨髄腫、がんの骨転移などが

CHUGAI 中外製薬

疲労回復の栄養補給剤

グロンサンDX

グロンサンDXは、グロンサンにクコシ、オウギ、オウセイの3種の強生薬を配合。

滋養強壮、肉体的疲労時の栄養補給に

グロンサンDX

疲労度

グロンサンDX

グロンサンDXは、グロンサンにクコシ、オウギ、オウセイの3種の強生薬を配合。

滋養強壮、肉体的疲労時の栄養補給に

グロンサンDX

新入職員紹介

みなさんよろしくネ!!

白柳 慶之 (医師)	鈴木 牧江 (栄養士)
亀井 美穂 (看護婦)	山田 京子 (保母)
石井 真紀 (看護婦)	池浦 恵子 (保母)
小幡 茂子 (看護婦)	池田真由美 (クラーク)
須田 房江 (看護婦)	福田 順子 (調理員)
高橋かおり (看護婦)	江口とし子 (調理員)
本尾 征子 (准看護婦)	伊藤奈穂子 (看護学生)
関 さおり (准看護婦)	前沢 淳子 (看護学生)
山田久美子 (薬剤師)	稲毛奈緒子 (看護学生)
刈込 美湖 (薬剤師)	大胡 美香 (看護学生)
木村 聡子 (MSW)	吉岡久美子 (看護学生)
北尾 愛 (MSW)	

わが家のアクアリウム

エッセイ

薬局 杉 春彦

わが家(狭いアパートメント)には、3つも水槽がある。最近、ちまたではアクアリウムなどというものが流行しているらしいが(確か、NHKの趣味の講座でも3ヶ月程度放映されていた)。これが結構お金がかかるのだが、たいへん美しい水中の世界がインテリアになる。

インテリアには程遠いわが家のアクアリウムなのだが、1つ目の水槽は娘たちが夜店の金魚すくい、実際はすくえずおなげけでいただいた金魚、これがたいがいすぐ死んでしまうのだが、幸せなこと

作文

心の宝「看護婦としての母」

小6年 吉野 達郎

「ただいま」「おかえり」
ぼくが家に帰ると、母の元気な声が部屋の奥の方から聞こえてくる。「おかえり、じゃあ行ってから」母はぼくを待っていたかのように仕事に。「じゃあね、行ってらっしゃい」とぼくは母を見送る。母が看護婦として再び働き始めてから2年たった。母はそれ以来元気で仕事に出ていく。仕事で忙しい母を手伝うことはできないが、元気な母が帰ってくるととても安心する。それと同時におとしの母のことを思い出してしまう。

夏がさかんになってきた6月ごろだった。「ああつかれた。ちょっと2階へ行って休んでくる」と母は2階へゆっくりと上がっていった。「このごろ仕事がついのかなあ」と少しは心配したものの母の仕事ぶりをぼくは軽く考えていた。そんな日々が1ヵ月程矢のように過ぎ去っていった。



左から ぼく、母、弟

父は早く会社から帰って来るようになり、新潟の方からは祖母も来て家の仕事を手伝ってくれた。ぼくも弟と一緒にできるかぎりの努力と協力をした。ちょうどその頃ぼく自身も母に心配をかけたからだ。

それはぼくが急にサッカー部に入りたいと言出した時だった。「ねえ、サッカー部に入っていない？」「だめ、絶対に続けられないから」ぼくと母は口論になった。ぼくの気持は絶対にサッカー部に入りたいと母を気づかう気持ちではなかった。でも母はぼくを気づかう気持ちでいっぱいだったのだから。結局ぼくはサッカー部に入らなかった。

達が気味悪がって「川に返してきて！」と叫んでいるのだ。私が気に入っている。彼らを良く観察していると動きが実にユニークであることがない、ただ彼らは水槽の中の石と保護色の為、水槽の掃除の時、いなくなることもあり、10匹いたのが現在、6匹なので彼らはどこにいて

け回り喜んだ。「またお母さんが帰ってくる」そう思うとうれしかった。

だが次の問題が解決していない。母が仕事を続けるか続けないかということだ。話し合いは続いた。その結果、母は体を休めながら看護婦を続けるということになった。そのため最初は仕事もきつくない仕事を選んだ。父は料理を作ったり、せんとくをししたりした。ぼくと弟もお父さんの手伝いをがんばった。祖母は母が元気になるまで母の世話をしてくれたりした。家族みんなで母を応援した。病院では他の看護婦さんが交代などで面どうを見てくれたりもした。「本当に助かったよ」と母が言ってくるとぼくもほっとした。

今では体調もよくなり、だんだんと仕事にも調子がでてきたみたいだ。最近ではICUという夜間の仕事に入っている。そんな一生けんめいがんばっている母を見てると、ぼくもがんばる気持ちがわいてくる。

あれから毎日母は病人やけが人のために働きに出て行く。ぼくがけがや病気をした

編集後記

★1月17日兵庫県南部大地震発生!! こども達が震災の中で一生懸命新聞を作り、情報を流している姿が廻りの人々の涙を誘っていた。再認識した情報の重要さを。(若松)

★今年には阪神大震災、円高不況、サリン、オウムと世の中がさわがしい。私は心おだやかに過ごしたいけれどもうまくいかず。(有富)

★熱川バナナワニ園に行った時、Rは「ワニがバナナを食べ

タイ・タイム

プッシュミプルユ

動物の気持ちが分かり、動物と会話することができる医者「ドリトル先生」を御存知だろうか。ヒーローフティング作「ドリトル先生アフリカ行記」に胴体の前後に頭がひとつずつある奇妙な動物が登場する。名前は「プッシュミプルユ」プッシュは押す、プルは引くという意味であるが、井伏鱒二は「オシツオサレツ」と訳した。自分なら「モチツモチツ」でも訳したであろうか。人間一人では何も出来ない。生きることも出来ない。多くの人とモチツモチツすることにより、大きな事が達成できるとをこの病院で学んだ。

医師 市場 洋

時病院でむかえてくれた。母は看護婦としてのほこりをもって仕事にのぞんでいる。母のおかげでぼくは色々なことを学んだ。入院した時お母さんは死んでしまうのかと思ったこともあった。この苦しみにたえた母をぼくは尊敬し続ける。いつまでも。

ある人のために働きに出る母。ぼくのことを本当に思ってくれている母。勉強を優しく教えてくれる母。そして、病気で苦しんでいる人達や、けがで不自由な人達に愛されている看護婦としての母がぼくにとって心の宝だ。そんな心の宝の母をぼくは尊敬し続けるだろう。いつまでも。

★先日海へ行こうとウエットスーツを着たら、ただのトドになっちゃった。なんまいだ、なんまいだ。しばらく酒断しよっと。(若林)

★時がたつのが早すぎて、ついていけない時がある。(もろ)

★リストラの次はリン生産ライン「LEAN」とは、脂身の少ない筋肉質のシステムといった意味である。(櫻田)

★親父の小言(娘に) 帰りが遅い、電話が長い、泣き言は言うな、義理を欠かすなと言いつつ、早く結婚しなさいと小言いう。(山口)